

=私たちの活動 4つの柱=
 *制度化と指導員の身分保障
 *専門性と仕事の確立
 *父母と共に学童保育運動の発展
 *全国の指導員との団結と連帯

建交労愛知学童保育支部

支部ニュース

2023. 7. 1 0.
 NO. 3 2 8
 全日本建設交運一般労働組合
 愛知学童保育支部 発行
 名古屋市市中川区宮脇町2-99-2

制度・予算の拡充にむけ、実態と要求を伝える

7月6日、名古屋市との話し合い

今後の方向性、結局、学童任せか

愛知学童保育支部は、7月6日、名古屋市子ども青少年局放課後事業推進室と話し合いの場に臨み、仲間たちが働く実態



話し合いに先立ちあいさつする市川委員長（イーブルなごや）

を伝え、施策や予算の拡充を求めていきました。放課後事業推進室は、石田主幹はじめ3人が回答に立ちました。市川委員長は、「市が出した『今後の方向性』には、子どもの権利保障のため、と書いてある。

その前提で今後の施策を考えていく、ということが良いか」と市の基本姿勢を問いました。市は「子どもの権利は大切であり、同じ方向を向いていると思ってもうっ」と回答しました。

合同運営や法人運営の移行については、市は「モデル事業の対象の選定を進めている。モデルケースで今後の課題を洗い出していきたい」と説明。しかし、私たち指導員にとって法人の選定や指導員の雇用・労働条件が、結局、個別の学童保育所に委ねられるでは大きな不安があり、市はそこでどのように内容を確保していくのか、しっかりと検討してほしいと伝えました。



土地確保の発言をする加藤さん

学校敷地から追い出され、施設確保が困難

学童保育へのニーズが高まる中で、待機児童問題の解決、支援の単位分けにともなう土地確保、施設確保に関する要求が高まっています。

加藤さん（書記次長）は、「以前、学校敷地内に学童があった。コミセンを建てるために行政が土地探しをしたが、見つからず。そこで、学童が追い出され、そこにコミセンが建てられた。行政が土地を見つけれない

のに、学童は保護者たちが見つけなければならぬ。そんなことを学童に負わせてよいのか」。岡田さん（書記次長）は、「待機児童を出さないために支援の単位分けを進めてきた。良い土地が見つかったが地域向けの説明会でたった1軒の反対のために断念。あらたに見つけた物件は、オーナーのご厚意で耐震工事をしていたので、ようやく開所となった。しかし、そこがふさわしい生活の場なのか。ないより

マシ、ということではないのか」など、土地、施設確保の大変な状況を発言しました。市川委員長は「トワイライトルームを利用している方も本来のニーズは学童保育にあるのではないか。市の方針には納得していない」と述べました。石田主幹は、国の基準にしたがって拡充してきたがまだ課題があることは承知している。みなさんの意見を参考にしたい」と話されました。

第51回定期大会、リアル開催！

全員参加で、大会を成功させよう！！

日時：10月9日（月・祝）
 9：30～16：30

会場：労働会館東館2階ホール

労働組合にとって、一番大切な取り組みが支部定期大会です。参加対象は、みなさんたち全員です。この日は、この定期大会のために日程を確保しましょう。

組織づくり、仲間づくりを大切に

7月2日(日)、第2回支部委員会が開催され、春闘中間総括、当面する運動方針などの議案が採択されました。

執行部からの提案では、政府の子ども未来戦略方針で学童保育の「常勤職員配置の改善」が示されたものの根本的な課題に手が付けられていないこと、春闘では物価高騰を乗り越えるために大幅賃上げの要求が高まってきたこと、一方で退



職だけではない組合脱退が増えており組織作りが大きな課題になっていることが話されました。

支部委員の発言では・・・
「土曜日の開所について、指導員の確保、財政の確保が厳しい」

「組合の必要性が問われている。やらなくちゃいけないという義務感では組織は強くない」

「初任給23万円の要求を出したが、回答はゼロでやる気を失ってしまっ」

「若い人が増えてきているからこそ、何でも話せる、来なくなるような分会づくりが必要だ」など、現場での厳しさとそれを支える組合活動の大切さが語られました。

また、執行部からは・・・
「自分自身も、最初は組合に入っている意味がよくわからなかった」
「どこの学童も、今本当に大変。その大変さを責めないように、今のシンドさを共有することを今こそ大事にしたい」など、率直な思いが発言されました。

新組合員歓迎会、3年ぶりにリアル開催



司会を務めた水川さん(天白)、近藤さん(副委員長)。

6月22日、建交労会館にて新組合員歓迎会が開催されました。

豪華な食事を楽しみ、分会紹介、みんなでゲームなど、あっという間の2時間でした。



ゲーム大会で優勝を飾った千種分会チーム。



ひとりひとりが元気が出る組合を作っていきましょう。



これでもか、というくらいよく食べた緑分会。